夕刊 磐城新聞 五月十八日發行

市設圖書館は斯くありたい (二)

田中伸一郎

積極的建設に第一に問題になるのは經費であり、第二に問題となるのはその讀者層である

經費は市の財制如何に關する事であり、今此處で云々出來るのは甚だ漠然たるを免かれないが、餘り豐かでもない市財制を前提として考へれば、設立の端初である今日、最少限度の費用に依る最大効果が最も望ましいのに異存はあるまい。次に讀者層の吟味であるが圖書館然としたる圖書館も決して惡いものでもないが實際何人がその閲覽室に頑張つて利用することだらうそして如何なる書が多く讀まれるだらうか。こうなると今、此處で論斷すべき確固たる根據はないが結果は甚だ悲觀的ならざるを得ない。多くの椅子は空虛であり、たゞ徒らに經費のみかさまる結果とはなりはしまいか。平町の讀者階級を見各書店の店頭を見るにつけて斯く論斷するのはあながち不當ではあるまい。恐らくは實際その反對の結果たらんことを希望する者があるが、又將來さうした結構な狀態に向上されんことを念願するものであるが、只だ此處では現實問題として最も困難であると云ふ設立の端初に當つて、最も合理的である論を下したまでゞある

然らば如何なる姿が平圖書館の相應しい姿があるかと云ふに私は消極的なるものとして、次のプランを提出する

二、消極的なるもの

消極的なるものを次の二つに分類することが出來る

一、保存的なること

二、郷土的なること

保存的と云ふのは最初から閲覽者を主とせず、極く小規模でも良いから耐震耐火の完備せる書庫を建設し從つて事務は地味なものであり、より多い藏書と利用者の擴張は第二義とすることである

郷土的なることは主として地方關係書の四散を防ぐことである。郷土的なることゝ、保存的なることは、その消極性に於て共通であり、又二つ相俟つてこそ始めて現實的平圖書館が出現するのである。試みに思へ去日の高月臺、飯野盛男氏宅の火災を。寶治の昔、六百八十年前からの歷史を持つ建物を今更の樣に惜しむだ市民は、もう一歩、貴重な古文書が灰燼の危險にさらされた事を思はねばならぬ。幸ひにして磐中健見の日頃の訓練よろしき敏捷なる處置に依つてその大半は安全なるを得たが、この際かゝる圖書館設立の秋に當つてその感を一層深くするものがある

潮聲硯靜抄帳

梅　赤羽松堂選

屋根替の藁屑かゝる野梅かな　石城
閼伽桶に蕾ふくれし梅の枝　芳月
曉や細雨の中の梅の花　眞砂常
梅咲いて小さき書齋の夕明り　花堂
汐騷のとゞく裏戸や梅開く　一來

追章

梅の香や行きつりし夜の朧なる　松堂
萩寺の梅また早し樂燒す

滿洲國皇帝御來朝恭賦

二首　佐波古湯嶽

蘭花大旆度潮來
巡幸扶桑國士隈
草木山川歡喜色
啓蹕靉靆紫香臺

一朝相見兩元皇
肝膽契堅握手長
威德融和天下靖
飛龍雙位臨東洋

椿

河名晋

可愛い椿のあの蕾
いつの間にやら咲いてゐた
語る二人を眺めてる
みんな見とれる紅椿

いつの間にやら散つてゐた
淋しく下駄に踏まれてる
手折つてさしたあの椿
今年もきれいにさいてゐる
誰かをさしみく待つてゐる

その日〳〵

5月19日　△桶狹間戰(永祿三)△新井白石死す(享保一〇)△天津に兵亂勃發(昭和八)△ブルガリアに大騷擾(同九)

5月20日　△コロンブス逝去す(一、五〇六)△跣足禁止令公布(明治三四)△滿洲國鏡泊學園職員學生十四名匪賊に襲はれ全部死亡(昭和九)

○

このごろ、早梅雨のやうな天候で、初夏のすが〳〵しさを見ることが出來ない。

小説 誰が殺したか

(21) 國枝史郎作　醜造寺膀齋畫

第一の殺人 (二十一)

『なアんだ、お前か』

鬪屋警部補は、につこり笑つて青山に椅子をすゝめた

青山は、ニヤッと苦笑して頭を掻いた

鬪屋警部補は、もと横濱で長く刑事をした事があつた

で、掏摸の誰公をよく知つてゐた。誰公は隨分と鬪屋警部補の厄介になつたものだ

『青山なんて僞名で、東京へなんか出しやばつて來てゐたのかい……』

『名を變へたのは、今までの惡い習慣をやめて、正しい生活へ甦へらうと思つたからです』

『何とかいつてやがる。東京でもちよい〳〵今だつてやつてゐるさうぢやないか……』

『いや、たまにしか……』

『たまにだつて、ハッハッハ君も然し大分正直になつたね。たまにしかやらんのだね』

『鬪屋さんにはかなひませんよ』

『俺と約束したのはどうしたんだ。俺が横濱を去る時に君はもう決してやらん、この道からキッパリと足を洗ふと誓つたぢやないか』

『何とも申わけありません!』

『しかし、今日はそんなことではない。君は蝶子と仲がよかつたね』

『ゐ』

『君は、蝶子のアパートの部屋の鍵を持つてゐるのだね』

『持つてゐます』

『どうして持つてゐる?』

『蝶子さんから渡されました』

『一昨々日の夜一時頃蝶子は丸山ビルの三階で殺されてゐたのが、その晩君は何處にゐた?』

『蝶子さんの部屋に居ました』

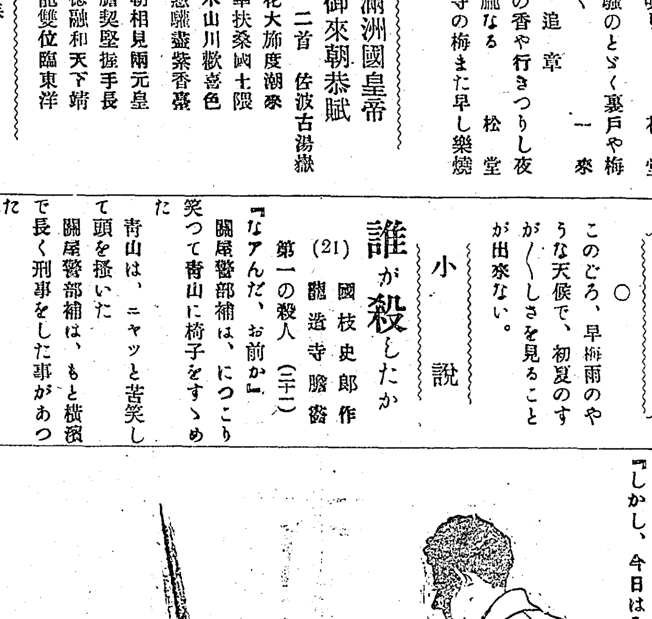
『どうして?』

『一足先にホールから歸つて待つてゐたのです。私達にはそんな約束が出來てゐたのです』

『蝶子の部屋にずつとゐたのかね、翌朝まで』

『ゐました。待つても待つても歸らないので、いら〳〵して一睡もせず、とうとう朝になつてしまひました』

『君は、丸山ビルの二階に事務所を持つてゐるね』



『は、持つてゐます』

『三階のホールは貸間になつてゐたが、君は見に行つたことがあるだらう』

『君の事務所のドアの鍵でホールのドアが開くだらう』

『開きません。あのビルではドアの鍵が一つづゝみんな違つてゐるのです』

『非常口のドアの鍵は、君達事務所の人達は持つてゐないのかね……』

『持つてゐません。あの鍵は丸山事務所の人が持つてゐるのです……』

『君は、兇行のあつた晩に丸山ビルの裏側の非常階段を上つた覺えがあらう』

警部補は急に鋭い眼で青山を見詰めた

『あの……』

と周章て

『上りはしません。實はちよつと階段の上り口まで行つたことは行つたのですが……』

『後を向き給へ』

はいつて來るなり、チラッとそれを眼にとめたので、さつきからオーバーを着せたまゝにしてゐたのだが、後向きになると青山のオーバーの背中に、殆ど消ゐかけてゐたが縱に一本ペンキの附いた跡があつた

創作 猿飛佐助

木津茂太郎

一

亂世の頃である

猿飛佐助と三好清海入道は、主人眞田幸村の命を受け、諸國の大、探査の旅に出た

月代も蒼々と切り下げにして、風呂敷包みを斜めにしよひ草鞋の緒もすが〳〵しい佐助であつた

坊主頭で黑衣をきて、太い金棒を突いた、顏か髯かわからないやうな髯むじやな清海入道であつた

二

二人は谷底で呻いてゐた

さつき、この山中で十人ばかりの山賊に出合ひ、刀を拔いて盛んに戰ひ、佐助はお得意の甲賀流の忍術も應用して奮戰したのだつたが、山賊のために身体に酷多のかすりきずを負ひ、この水おとのする深い谷間へ辷り落ちてしまつたのである

三好は、それでも大きな岩に這ひ上つた。上手と下手を眺め渡すと、ちら〳〵と流れてゐる谷川の水と蒼い霧ばかりだつた

三好は何糞と思つて

『佐助!おーい!おーい!佐助ェ!』

と呼んだのであるが、友佐助の姿は見ねなかつた

三好は跛を引き、蹴躓きながら、累々と石や木の根の轉がつてゐる穴ぐらのやうな谷底から、喘ぎ〳〵登つて行くのであつた。疵の淺手だつたせいもあるのか入道の姿は熊笹の茂みの中く消えて行つた

三

佐助がうーむ〳〵呻つてゐると、ゐたりはもう既に朝になつたのであらうか、白々とした空氣がながれて水が小聲で見殘した昨夜の夢を唄つてゐた

其の深々とした谷間へ一人の女が下りて來た。そして、淺瀬を渉り石を飛んで來た

それは朝草刈りに來た山家の娘であつた。彼女ははるか谷間に異樣な怪我人を見出したのである

佐助は娘に救はれた

—○—

先づ御待ち下さい。

本邦唯一の定評ある後藤ボデー會社製作の豪華なる流線型高級遊覽バスが去十六日に入車致しました。樂しい御遊行、御視察御見學各種團体には是非此の遊覽バスを御利用下さる樣御願致します。御申込はお早く承はり度ふ存じます

尼子自動車商會 遊覽部 電六四〇番

廣告

小店員募集 十四、五才希望者 御來談下さい 平町五丁目 山崎時計店

新田町の おでん かん酒 榮ちゃんで (十二、三の小年) 至急募集

花柳病の豫防と治療

感染 惡化 再發 → 徹底的治療が肝要!! 陽春期を迎へて!

人生の最大不幸は花柳病である。これが一度感染した爲めにそれ迄圓滿で樂しかつた結婚生活も破壞し離婚の悲慘事が數限りなく生んでゐる。花柳病は疾患者自身ばかりでなく、周圍の人々にとつても實に不快なものである。從つてこの惡疾の治療藥も種類多く、安心ならぬものがあり、これ等を試みても結極渡變に終るのが常である。
あれこれと迷はずにこの陽春期に際し、花柳病の豫防と治療に於ては長き歷史と最新の學理に基く研究によつて完成され、世に絶大の信用を得てゐる本社の最優秀品に依つて徹底的治療が肝要である

花柳病豫防藥 ホシロクシン
豫防藥の元祖とも云ふべく世に「ロクシ」の名を稱へてゐの 類似品あり これにても其の眞價を知らるべし
.10 .20 .50 1.00 2.00

淋病内服藥 ホシゴノール
主治効能——急性慢性の淋病、消渴、膀胱炎、膀胱カタル
1.00 3.00 5.00

淋病注入藥 ホシズルファミン
主治効能—急性慢性の淋病、尿道炎、膣炎、膣部糜爛
.50

黴毒内服藥 ホシサヨリン
主治効能—黴毒、痳毒、淋毒、濕毒、黴毒性痼疾、黴毒性ロイマチス
1.00 3.00 5.00

花柳病豫防藥 ホシペッセル
1.00

全國ホシチエンストアーにてお求め下さい

〔花柳病の豫防と治療〕に關する小冊子あり ホシチエンストアーにきな本社營業部宛御申込あれば時速に送附す

クスリはホシ ホシ胃腸藥
20 .50 1.00 2.00

星チエンストアー支部 ホシ藥舖
平町三丁目 電話四二九〇番

…販賣店…
平町 五丁目 山野邊藥局
四丁目 小野 藥局
同 關内 藥局
二丁目 堀 藥局
同 西村屋藥局
一丁目 水野 藥局
同 大平屋藥舖
古鍛冶 阿康 藥局
湯本町 石畑 岩瀬屋藥舖
三函 峯 藥舖
町裏 菅波 藥局
三函 白石 藥舖
小名濱町 米野 寶屋 藥舖
中島 白石 藥舖
中町 小川 藥舖
西町 松原 正美
江名町 喜久屋藥舖
植田町 菊田屋藥局
安田屋藥局
金成五郎藥局

官僚內閣の弊を擧げ 石城政友派報告演説會

牧野田子兩代議士獅子吼

佐藤、鈴木兩代議士の議會報告演説會は今十八日午後二時から本部顧問牧野良三、總務田子一民兩代議士、政友會本縣支部長窪田貴族院議員を迎へ聚樂館に於て開催したが一般は超然內閣成立以來忘れたものの如く永く政黨の刺戟から遠ざかつて居た折柄なるに加へ辯士が中央政界選りぬきの名士とて入場者館詰め滿員の盛況裡に佐藤、鈴木兩代議士の報告に次ぎ田子、牧野兩代議士が時局問題に關し一流の快辯を揮ひ聽衆を傾聽せしめ五時閉會した

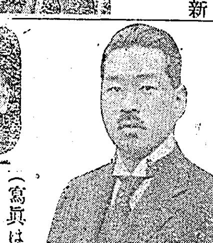
鈴木代議士を會長に

新進氣鋭を網羅した ＝幹部顔ぶれ＝

之より先き郡部會の幹部會は總會に先だち午前八時から倶樂部に於て開催、木村部會長、井上幹事長、古川副會長、安島元代議士、小林元縣議、金成、佐藤、鈴木貴衆兩院議員、小野前縣議、伊藤淺之助氏、其他常任幹事多數出席、木村會長井上幹事長より辭任申出に付き詮衡委員により鈴木代議士を會長に內定、更に新會長外最高幹部會議の上

副會長　小野晋平
　　　　古川傳一
幹事長　川崎文治

に內定總會に臨んだ



（寫眞は鈴木、小野、古川、川崎の諸氏）

陣容を代へて久し振りの總會

時務刷新の宣言決議

石城政友部會の總會は幹部會に引續き午後一時より聚樂館に開催したが折柄の聚雨に拘らず出席數百名、木村部會長座長席に着き幹部會の經過報告で會長以下前記新役員を滿場一致承認左記宣言、決議を決定午後一時閉會した

宣言

國運伸展、民福の增進は一に善良なる政治の運用によつて之を確保せらる現內閣成つて既に十ヶ月餘、軍需工業貿易關係等財界一部の殷賑に眩惑して農山漁村、中小商工業者瀕死の痛苦を察せず徒らに財政の調整に囚はれ國民生活と地方自治体との壞滅に瀕せるを知らずして、之が匡救復興に完きを致すの經綸なし、口に民意の暢達を誓ふも豈よく之を爲し得るものぞ加ふるに誠意を以て政黨の政策を迎へず常に擧國一致の形態を裝ひ、最近支柱補强の材として屋上屋の內閣審議會を創め、政府の外廓に設けられたる防風林の陰に其の安きを求めんとす、まさに官僚政治の本態にして國民を基礎とする政黨政治の斷じて認容すべからざる處なり、而も我黨が國防と產業との均衡を失せる跛行的十年度豫算を承認したるは國家の現狀より觀て寔に怕に已むを得ざるに出でたるのみ、翻つて地方當今の情勢を見るに何等定見を藏せざる低調政治に基く生民の苦惱は、僅かに生氣ある炭界を除き各方面を擧げて彌々倍々深刻ならんとす、國家の深憂大患ならずとせんや、今にして政策を轉換せしめ振興の大綱を樹て國家の康寧と衆庶の安泰とを劃するに非んば我が天下國家の將來を如何せん、吾人は過ぐる第六十七議會を通じて政黨に基礎を置かざる內閣の如何に無力にして政黨の存在が立憲政治の運用に飽迄必要なる所以を痛感せしめられたり、玆に郡會總會を開くに當り產業立國の大本に基調せる積極進取の既定方針に則り欽定憲法の大道に遵順し須く政黨政治の確立に勇往邁進せん事を期す

敢て宣す

昭和十年五月十八日

立憲政友會石城郡部會

決議

一、我黨既定の政策を實行し速かに生氣を恢復せん事を期す
一、農山漁村、中小商工業者の甦生を期す
一、石炭運賃値下げの實現を期す
一、平商業學校の縣移管を期す
一、省營バス、ガソリンカーの運轉其他地方交通網の整備を期す
一、道路、橋梁、港灣等地方關係土木事業の促進實現を期す

四十圓台豫想に養蠶家意氣込む

一部に桑園還元の計劃

郡下に於ける春蠶掃立ては既報の如く去る八日から開始、目下終末季に入つて居り約二割減を豫想されてゐるに反し相場は四十圓台と云ふ高値を見込まれてゐるので掃立ても若干增加するではないかと見られ從つて桑葉の不足も氣遣はれてゐると、尙昨秋繭暴落から折角の桑園も他方面の耕地に向けてゐたのが昨今の繭價を有望視し再び桑園に戻さんと計劃して來る方部も漸次現はれて來たと

海の護り廿四名 平町の合格者

來月一日橫須賀へ入團

過般平町で執行された今年度海軍兵試驗に合格した左記二十四名は愈々來る三十一日朝平驛發列車で橫須賀に向ひ六月一日憧れの橫須賀海兵團に海國日本の護りとして入團する事になつた

（平）松崎三郎　田久勇　草野菊雄（四倉）若松巖　阿部傳　島田司　今井勝儀（永戶）草野勇（鹿島）高萩守政（高久）青木安政（川部）蛭田八三郎（湯本）越前好新　小室德（勿來）鈴木皆雄　中野文一（草野）小島衛（上小川）長瀨喜藏（磐崎）小野勝助（小名濱）松本新太郎　高木三郎（赤井）船生一三　大里豐（內郷）服部繁（大野）大和田正雄

。。。。。。簡閲點呼參會者

來月十五日小名濱で執行される海軍簡閲點呼に平町からの參會者は左記九名であると

（禰宜町）渡邊孝一（長橋町）關內庄平（田町）深谷亥三郎（鎌田町）小野新平（三丁目）柏原光太郎（白銀町）花澤行雄（鎌田町）高田清二（古鍛冶町）矢島己三男（月見町）石井勝之助

統計審査會

郡下の日割決定

統計審査會は來る二十日より二十九日まで開催されるが郡下の分は左記日割で平團体事務所に開かれる

廿七日『國勢調査に關する事項』各町村　廿八日『學事統計審査』勿來、錦、植田、川部、田人、入遠野、上遠野、渡邊、山田、泉、小名濱、玉川、磐崎、江名、鹿島、湯本　廿九日『同』平、高久、內郷、豐間、夏井、澤渡、川前、永戶、赤井、好間、大野、神谷、草野、平窪、上小川、四倉、飯野、大浦

鑛毒の——流下により 水田に惡影響

好間の百姓さん狼狽

好間村地內の水田は目下揷殃季を前にして最近上流炭礦で開始した粉炭水洗殘りの汚水流下により目下發育の重要季だけに重大な支障を來すやも知れず合流川たる好間川の魚族もこれがため昨今その數が激減したと云はれてゐるので下流關係者は少からず狼狽し近く炭礦に對し何らかの交涉に出るやも知れぬ情勢にあり成り行きを注目されてゐると

錦校で開催 勞作教育研究講習

錦小學校では郡第一區聯合教育會後援の下に來月一、二の兩日同校に於て『農村に於ける勞作教育研究講習會』を催すが新設の昭和人絹會社工場の創業と共に純農村であつた同村は一躍工場地帶としての生活景觀下に支配さるゝ狀態になつたゝめ同村全般に亘る經濟機構の變革と共に同校教育についても一應の見直しと再吟味の必要を痛感させられた所から從來の勞作道を中心として新らしき農村教育を研究せんとする講習會で本邦勞作教育研究の權威者を講師として開かれるが講師並に演題左の如く第一日は全校授業公開、第二日は勞作施設見學を行ひ附帶行事として世界及日本著名勞作學校寫眞展覽會、全國綴方優良文集展覽會を開催、終了後は希望者に昭和人絹工場の見學を案內すると

『現代教育思潮と勞作教育』玉川學園長小原國芳『作業教育の眞髓と鄕土教育の實際』東京女高師教授齊藤英夫『報德精神と敎化村經營の實際』縣視學水野末治『全村教育の施設とその体系』茨城縣日高小學校長渡邊四郎『所感』郡擔當縣視學古川佐壽馬

愛犬家御用心！

鑑札が無いと撲殺される 平署で取締り勵行

愛犬家御用心——つい此の間高月の火事に行く途中仲間町の高山寅二さん（五二）が飼犬に足部を咬みつかれた外最近の繁殖季に際し各所に野犬が跋扈してゐるので其筋では一兩日前から野犬狩りを執行し一頭につき二十錢宛で買上げてゐるので無鑑札の飼犬家は直に屆け出られたいと

同僚を毆る

些細な事で 亂暴坑夫檢擧さる

內郷村大字白水字濱井場一磐炭坑夫飯野友太（三九）は昨十七日午後一時頃同村綴坑食堂で同僚金澤政喜（三七）と些細な事から喧嘩となり鐵拳で政喜の左眼部に全治二週間の傷害を負はせ平署に檢擧された

懲役に不服

錦のトタン泥控訴

錦村大字江栗字馬場大工職橫濱市中區生れ石川芳吉（二九）が去月二十四日夜昭和人絹工場內雜品庫から同工場土木請負淸水組所有のトタン板七十枚（價格六十三圓）を窃取した事件は昨十七日午後二時より平區で香西判事係り白水檢事關與公判開廷、求刑通り懲役二年を言渡されたが卽刻控訴を申立てた

軍都見學團便り

（第一信）

○出發

五月十六日午前五時十五分平驛發。一行四十八名、男二十一名、女二十七名國防婦人會絕對多數

○宮城禮拜

午前十時新綠に映ゆる陽光を浴びて、二重橋前に整列・謹んで宮城禮拜　陛下の萬歲と國運の隆昌を祈願し奉る

○感激の悲鳴

戶山學校—戶山學校幹事鈴木大佐殿感激の面持で『二十年前——大正三年十二月。私が若松聯隊に居つた時平町に耐寒行軍をした事がある、その時の御歡待は忘れんとして今だに忘れる事が出來ない、平の方々ときいて懷しくお待ちして居りました』と。其の返禮の譯でもないだらうが至れり盡せりの計劃を立てゝ十二分に見學させて戴きました。軍樂隊を先頭にして生徒の行進、合同体操、機械体操、銃劍術、どれもこれも流石に世界一の感を一層深くした。殊に隆々たる筋肉もあらはにする体操、六米の障害物の上からの宙返り、銃劍、長劍、短劍の綜合演練等、其の度に婦人團の方から感激の悲鳴があがる

○赤毛布

流石は平町の御歷々丈けあつて東京初めての者は一人もない。然し若干の赤毛布はある。目の廻りさうなアノ交通路で自動車ばかり見てゐて、交通巡査から『ゴーストップをよく見て、』なんてお小言を食つたのや、東京驛の婦人待合室にすました顏して座りこんでポカ〳〵煙草を吹いた位は上部だらう。總務の酒井助役『若い外國婦人を見てもんな氣が起らないのは不思議だ』位は尤もな話し。○○寫眞館主が九段遊就館見學中懷中物をすつかりスラれて『ユウシウなスリが居るナ』には負けた

（軍人會館にて）

四五十名を限度に 托兒所陣容成る

九品寺で來月十五日開設

平町九品寺では既報の如く來る農繁季に際し例年の如く托兒所を開設近隣農家の便に供する事になり昨夕關係者が會合協議の結果期日は來月十五日から二十八日迄二週間、北白銀町菅野アイ、八幡小路志田イト兩女を保姆として毎日午前七時から午後六時迄一日四五十名を收容する豫定であると

巡回診療 日割

縣衞生課の巡回診療中本郡關係左の如し

川前村—五月二十二日　荷路夫村—廿三日　貝泊村—廿四日　石住村—廿五日

廿三夜遷座

來廿五六兩日擧行

こゝ兩三年に亘つて淨財を受け愈々新裝成つた平町の盛り場たる十五丁目二十三夜尊遷座式は既報の如く舊四月例祭たる二十五、二十六の兩日擧行されるが二十五日には稚兒の行列、二日間に亘り鐵摩修法を執行する外餘興などもある筈

炭鑛地帶の暗黑化？

一昨日好間の落雷騷ぎ

一昨十六日午後七時半頃折からの雷雨中好間村古河炭鑛山神社裏ズリ捨場の動力ケーブル線に落雷幸ひ人畜に死傷はなかつたがこれがため炭鑛の電燈は約二十分間に亘り消燈し同地帶を暗黑化した

上岡村（双葉）の小作爭議 圓滿解決に近づく

來月二日調停會續行

既報—双葉郡上岡村大字上手岡字下千里遠藤義淸外十一名が新地主東京市淀橋區小林欽政氏を相手どり平支部に申立てた小作地先買契約履行請求事件は去る十四日より三日間中島裁判長、丸山小作官補その他上岡村役場に出張關係者一同を召喚調停委員會を開いた結果原告側に未參加の小作人遠藤小太郎外十一名が新に加入し自作農創設を懇願、又小林氏も小作人達の心意氣を諒とし賣却を承認したので問題の田地四十餘町步の價格鑑定方を地元の三氏に依賴歸廳したが來月二日續行される調停會には圓滿解決を見る模樣であると

磐炭健保大運動會

內郷村磐炭健康保險組合の春季大運動會は明十九日午前九時から同鑛金坂グラウンドで擧行されるが今年からは同組合で優勝旗を作製しての同村第二、第三、高坂三小學校兒童の八百リレーが人氣を呼んでゐる外例年の如く懸賞附きの應援團が綴坑、工作平發電所、町田第三、高坂住吉の四方部に分れ選族部などの踊りなども加はり夫々意匠を凝らした應援振りに賑ひを豫想されてゐる

在鄕海軍班記念日事業

在鄕軍人平分會海軍班では來る二十七日の海軍記念日に際し昨年の如くZマークに『皇國の興廢此一戰』を織り込んだ徽章を各學校、婦人會並田町藝妓連にも一個一錢で頒布し二十六日から三日間これを着用せしめて海軍思想の普及に努むる事になつた

。。。。。片岡課長來郡

農林省片岡耕地課長の一行は昨十七日來郡、小川江、鮫川堰を視察今十八日歸廳した

。。。。。。全國小學教員總會

全國聯合小學校教員會總會は既報の如く來る二十三日より三日間神戶市に於いて開催され、併せて楠公六百年記念祭が盛大に擧行されるが郡教育會よりの出席者は左の如く明後二十日午前七時三十五分平驛發列車で出發する

佐藤內郷、西山小名濱、吉田好間、五十嵐草野各校長

十九日（小名濱測候所調査）
日出 四、三〇　月出後 七、四七
日沒 六、三七　月沒前 四、三二
滿潮 前三、一五 後五、五〇　干潮 前一〇、五五 後一〇、五〇

二十日
日出 四、二九　月出後 八、四七
日沒 六、三八　月沒前 五、二四
滿潮 前三、五〇 後六、三五　干潮 前一一、二五 後一一、三〇

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

新五月十九日 日曜　舊四月十七日 乙未 友引 滿 昂宿

▲一白 ころうなる時は信用を損じて業に離るべし▲二黑 一喜一憂變化常なき日なり進むは損失の危險▲三碧 先を見込んで實質には失敗に陷り易き日▲四綠 打てばうたろゝ世の習ひ低きに居るが安全▲五黃 事無かれ主義を以て徐ろに進むが得策の日▲六白 次第に來る幸運を取逃さぬ樣に努力すべし▲七赤 遠き所より手近に利益あり口舌爭論は注意▲八白 意志さへ堅ければ不安も自然と除かるべし▲九紫 悲嘆改まり刻々と吉に向ふ時企業開店吉

新五月二十日 月曜　舊四月十八日 丙申 先負 平 畢宿

▲一白 勞苦にもみ拔かるゝ日何事にも隱忍が大切▲二黑 運勢は至極盛んに向ふ名弘め企業開店等吉▲三碧 薄利の日投機心を起す時は大敗を見るべし▲四綠 望事の大なるに過ぎて纏まり付かず程合吉▲五黃 位置は低くとも目上の引立てのある日なり▲六白 運氣塞りて氣分晴れざる日家居安靜が好てき▲七赤 抗すれば抗する程逆運に見舞はるべき日▲八白 居心惡くとも目上には引き立てらるゝ吉日▲九紫 地位に安んずれば禍は自ら集り來るべし

廣告

松村醫院
院長 松村鐵郎
平町南町 電一〇七

御會葬御禮

五月十八日

喪主 永山一枝
親戚總代 永山平太郎
友人總代 鷲 寅次